

がん検診（施設がん検診・集団がん検診）

早期発見、早期治療のため、定期的に受診しましょう！

○検診の受け方

検診項目を確認

下の表にて、ご自身の検診項目を確認してください。

受診場所を決める

施設がん検診…市内協力医療機関での受診（4ページ）

集団がん検診…市の施設に来る検診バスでの受診（5～7ページ）

申込み

施設がん検診…協力医療機関に申込み

集団がん検診…市に申込み（6ページ）

受診



○検診項目と対象者

検診項目								
		肺	胃 (内視鏡 またはX線)	大腸	頸部	体部	超音波 Eー	マンモグラフィ
	40歳以上	○	○	○				
	20歳代				○			
	30歳代				○	○ (施設のみ)	○	
	40歳以上	○	○	○	○	○ (施設のみ)		○

※40歳以上：昭和62年4月1日以前生まれ

※30歳代：昭和62年4月2日～平成9年4月1日生まれ

※20歳代：平成9年4月2日～平成19年4月1日生まれ

※妊娠中の方は、市の子宮がん検診受診券をご利用いただけません。

妊娠中の子宮がん検診については、**妊婦健康診査費用補助券**をご利用ください。

● 大和市がん検診は、受診日当日に大和市に住民登録のある方が対象です。**転出後に大和市がん検診を受診された場合の検診費用は、全額自己負担となります**のでご注意ください。

● がん検診は、症状のない方のための検査です。何らかの自覚症状がある方には、検診ではなく、症状に応じた診断のための適切な検査や治療が必要になります。**症状がある場合は、がん検診を受けるのではなく、必ず医療機関を受診してください。**

(参考：国立がん研究センター がん情報サービス)

● 病気があっても、症状が出にくいことがあります。**結果が「要精密検査」なら、自己判断はせず、必ず精密検査を受けてください。**市では、疾病を早期に発見し、適切な治療を受けていただくことを目的に、精密検査の受診状況を確認しています。がん検診で精密検査が必要と診断され、その後の結果を把握できない方については、確認のため、市からご連絡させていただくことがあります。

● 精密検査の費用は保険適用となり、受診者負担です。

○検査内容

市のがん検診（一次検診）として行う検査

日本人死因の上位に位置するがんです

肺がん検診 肺のX線検査



肺全体のX線写真を撮ります。2方向から撮影し、二人の医師が画像をチェックします。

50歳以降に多いがんです

胃がん検診 胃内視鏡検査



胃の中を胃カメラで直接観察する検査です。異常が見つかった場合、そのまま精密検査（保険診療）に切り替えられることがあります。

胃のX線検査

胃の形や粘膜の形状などをX線写真で確認します。

日本人死因の上位に位置するがんです

大腸がん検診 便潜血検査



大腸疾患があると、大腸内に出血することがあり、その血液を検出する検査です。便はご家庭で2日分採取していただきます。

女性のがん死亡で上位に位置します

乳がん検診

マンモグラフィ検査



乳房を平らにしてマンモグラフィ（X線撮影）を行います。医師が必要と判断した方のみ、視触診検査を併用して行います。

超音波（エコー）検査

乳房に超音波をあてた画像で診察します。乳腺の発達した方に適しています。

30～40歳代でかかる方が増えています

子宮がん検診

子宮頸がん検査

子宮頸部の粘膜を採取し、がん細胞の有無やがんになる前の病変の有無を知ることができます。

子宮体がん検査

子宮体部の細胞を採取し、がん細胞の有無を調べます。

（参考）精密検査として行う代表的な検査
（保険診療）

肺がん精密検査

胸部CT検査

病変が疑われた部位の断面図を、CT（X線）を使って撮影し、詳しく調べます。造影剤を使用することもあります。

気管支鏡検査

気管支鏡を口から気管支に挿入して、病変が疑われた部位を直接観察します。必要に応じて細胞を採取し、悪性かどうかを調べることがあります。

胃がん精密検査

胃内視鏡検査

胃部X線検査で粘膜に異常が見つかった場合に行われます。

細胞診

病気が疑われる箇所の細胞を採取し調べます。

大腸がん精密検査

大腸内視鏡検査

内視鏡を挿入し、大腸の全部位を観察します。必要に応じて細胞診も行います。

乳がん精密検査

マンモグラフィ検査

病変が疑われた部位を詳しく観察するため、多方向から撮影します。

乳腺超音波検査

乳房MRI検査・乳房CT検査

病変が疑われた部位を詳しく撮影します。

細胞診・組織診

病変が見つかった箇所に注射針を刺して中の組織を採取し、悪性かどうか調べます。

子宮がん精密検査

コルポスコープ



子宮頸部の粘膜表面を拡大して観察する医療機器を使って、細かい部分の観察を行います。同時に粘膜の組織を採取して、悪性かどうか検査をする組織診を行います。